

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400130		
法人名	社会福祉法人宝樹		
事業所名	グループホームニコニコット		
所在地	千葉県市原市有秋台2-4-10		
自己評価作成日	平成26年10月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成27年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームニコニコットの理念である「思いやりの心」のもと、入居者とのふれあいを通じて生きる喜びを共有できるよう支援を行っている。また、地域行事への参加や法人内の障害・児童分野の施設との世代間交流を行い、地域住民とのつながりを大切にしている。食事においては、食品の安全管理を徹底し安心して摂取できるよう取り組んでいる。掃除、洗濯、調理、後片付け等を職員と共同で行っており、各入居者が残存能力を発揮できる機会を作るようにしている。医療面においては、医療連携体制をとっており、訪問看護ステーションと24時間連携し、入居者の健康管理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームニコニコット」は閑静な住宅地にある2階建ての建物で、施設内はバリアフリー環境の整備・エレベーターの設置等、入居者の身体機能に配慮した造りとなっている。「思いやりの心」を主眼とした施設理念を掲げており、一人ひとりの思いや意向を大切に、その人らしい生活の支援に努めている。また、法人が運営する障がい者施設や保育所の行事参加や訪問等を実施しており、入居者の生活活性化に繋がっている。定期的に施設行事報告や入居者の生活の様子等を綴った「ニコニコ通信」を発行しており、家族への報告・信頼関係の構築・施設への理解促進に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの心」という理念のもと、入居者が安心して地域で生活できるよう支援している。理念を事務所に掲示し、職員全員で共有し、実践している。	「思いやりの心」を主眼とした施設理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示し、周知を図ると共に、職員の入職時研修や申し送り時等を活用し、職員間での共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民と、散歩等の外出時に挨拶をして関係を築いている。また、地域のお祭りや買い物・食事に出かけ地域とのつながりをつくっている。その他、同法人の障害者支援施設及び保育園との交流もしている。	日頃から近隣住民とは挨拶を交わす関係を築いていると共に、地域行事に積極的に参加する等、地域との関係作りをすすめている。また、保育園との交流も行われており、世代間交流にも取り組んでいる。施設への来訪・相談を随時受け付ける等、施設を地域の人達に知ってもらえる機会作りの工夫を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、入居者の生活状況について報告し、地域住民の認知症理解への普及に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月1回開催している。市の担当職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域の代表者、本人、家族、職員で構成し、状況報告、活動報告、意見交換等を行い、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は、年6回開催しており、市役所職員・地域包括支援センター職員・民生委員・地域福祉ネットワーク会長・家族等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や日頃の相談にて、市町村と連携し、適切な支援につなげている。	市に対しては、必要に応じて報告・連絡・相談を随時行っており、協力関係を築いている。また、地域包括支援センターと密に連絡を取ると共に、研修への参加を積極的に行う等、サービスの質の向上に取り組んでいる。地域介護事業所の会議を通じて市と意見・情報交換を行う等、市との協働体制が構築されている。	

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策のため、玄関の施錠はしているが、本人の要望に応じ外出の機会を作っている。職員間では申し送りやサービス担当者会議、内部研修(認知症の理解)等で身体拘束を行わない支援につなげている。	身体拘束排除に関する研修に参加していると共に、研修内容を職員へ周知し、情報の共有を図っている。入居者の安全面及び家族の意見・要望に配慮し、玄関やユニット間の施錠を行っているが、随時、声掛け・見守り・付き添いを行い、自由な生活をできる限り支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にて虐待の防止について学び、報告書を作成して各職員が閲覧できるようにしたり、日頃の申し送り等で虐待をしない支援について共有できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する研修を受講し、内容については、全職員が報告書にて確認できるようにしている。必要に応じて制度を利用できるように関連資料を備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について、利用者及び家族に十分な説明を行い、疑問等については納得できるように説明を重ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時や施設サービス計画の更新時に利用者及び家族の意向を確認している。また、日頃の利用者の生活の中での確認や家族来訪時、電話でのやりとりにより、意向に沿った支援に努めている。運営推進会議においても、本人及び家族が地域の外部者に意見を表出できる機会を作っている。	家族の面会時や電話連絡時等に直接意見・要望等を確認している。また、運営推進会議に家族も参加しており、意見・情報交換をする場を設けている。挙げた意見・要望・相談等は、申し送りや会議を活用し、共有を図ると共に、迅速かつ適切な解決に向け努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や日々の申し送りを通して、職員の意見を聞き、サービスの質の向上を図っている。職員の個別相談にも応じて、安心して仕事ができる環境づくりに努めている。	申し送り・会議・連絡ノートを活用し職員からの意見・提案を確認すると共に、管理者が積極的に職員と話す機会を設け、意見・提案・思い等を把握するように努めている。職員に法人内の研修参加を呼び掛け、サービス向上を目指した人材育成にも取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が週1回、管理者及び職員と意見交換を行い、働きやすい環境作りに努めている。各職員の要望に応じて労働時間や日数を調整したり、業績に応じて昇格待遇面の見直しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を実施したり、申し送りやサービス担当者会議において利用者の状態に合わせたケアに取り組めるようにし、サービスの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内や千葉県内の研修に参加し、同業者とのネットワークづくりや情報収集を行い、職員のスキルアップを図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前や施設サービス計画更新時、日常生活の中から本人の要望を確認し安心した生活が送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接や施設サービス計画の更新、日頃の来訪や電話の時に、要望を確認し安心した生活が送れるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日頃の観察や意見交換、申し送り、サービス担当者会議において本人の生活状況を確認し、必要な支援について検討して、各利用者に適切な支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の能力に応じて家事等の活動について一緒に行っている。また、利用者の趣味や意向に沿った支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に施設サービス計画の内容説明等をするために、できるだけ面会に来て頂き、本人との関係性を維持できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みのある人物や持ち物等との関係性を持続できるよう支援している。また、馴染みのあるお店やイベント会場への外出も実施している。	地域の商店への買物や地域行事への参加を通じて、馴染みの場所への外出を支援している。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続も支援している。入居者の希望に応じて、友人との電話や手紙のやり取り等も支援しており、馴染みの関係継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の能力に応じて、日々の生活における役割分担を行い、共同生活ができるよう支援している。また、テーブルの位置を考慮し、利用者同士が楽しめるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開所後、退所者がいたが、関係継続の支援は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の観察、意見交換、申し送り、サービス担当者会議等において職員間で各利用者の思い、暮らし方の希望、意向の把握と共有に努めている。把握が困難な方は、表情、しぐさ、生活歴、家族、友人、他事業所から情報収集をしている。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認していると共に、必要に応じて、医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報の把握に努めている。入居後は、生活の様子や会話の中から意向をくみ取り、記録している。また、家族との話し合いや職員間の検討を通じて、その人らしい生活に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者の生活歴、馴染みの暮らし方、本人の意向を把握し、本人の意向に沿った暮らしの支援に努めている。		

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前は、本人、家族、他事業所等の方から情報を頂き、入所後は日々の観察や対話、申し送り、サービス担当者会議において、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員と利用者及び家族との関わりから、本人や家族の生活に対する意向、生活状況を把握し、サービス担当者会議における意見交換を通して現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向や記録を基に、会議で意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。入居者の趣味・特技・残存能力を活かせるよう検討をしながら、現状に即した介護計画の作成を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状況について個人記録に記入し、職員間で情報を共有している。介護計画の更新における資料としても、個人記録を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて訪問理美容の利用支援や郵便局、銀行、地元支所等地域の社会資源の使用、病院受診の同行支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて地域の納涼祭、レストランでの外食等の支援を行っている。また、同法人の障害者支援施設の夏祭りやクリスマス会、保育園の納涼祭等の交流会などの行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて訪問看護ステーションの主治医と連携し適切に医療が受けられるように支援している。また、本人の状態や本人と家族の希望に応じて他科受診の支援をしている。	協力病院や希望のかかりつけ医へ受診が可能となっており、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。訪問看護ステーションと契約しており、24時間連絡可能な体制・日頃の健康・服薬管理等、適切な連携を図っている。	

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康観察から利用者の状態変化を把握し訪問看護ステーションに連絡、相談し、指示に基づいた対応をして改善につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、病院の医師・看護師等のスタッフと連携をとり、情報交換にて状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は医療面での体制が整わず実施できていない。訪問看護の利用にて24時間連絡体制の確保はしており、今後終末期の支援導入に向けて検討している。重度化した場合は、本人や家族の意向を確認し、事業所の利用を希望した場合には最大限の支援を実施している。	契約時に施設方針・対応を説明していると共に、延命希望の同意書を交わしている。必要時には、家族の意向や医師の意見を確認すると共に、随時、訪問看護ステーションへ連絡・相談が可能となっており、適切な連携体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に、職員にマニュアルを配布したり、内部研修の実施にて、急変や緊急時の対応に備えている。事業所内にも連絡体制マニュアルを掲示し有事に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。災害時の備品については、法人施設から支援を受けられる体制になっている。また、井戸水の利用ができるため、災害時の生活用水の確保ができています。	スプリンクラー・火災報知機・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、年2回の消防避難訓練を行っている。訓練では、消防署立ち会い訓練・夜間想定訓練等を実施しており、災害時の対応方法を確認している。救命救急講習の受講やAEDの設置等、入居者の急変に備えた対策が整備されている。	手すり・階段・非常口周辺の安全確保を定期的に確認し、緊急時における安全且つ円滑な避難ができる環境整備に努めていただく事を期待します。また、今後も地域への理解促進を進め、緊急時・災害時における協力体制に向けて取り組んでいただく事を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りや会議の場を活用し、事業所の理念にある、「利用者への感謝と尊敬の念」を職員間で共有できるようにして、個々の利用者を尊重した言葉かけをして丁寧に対応している。また、利用者の自尊心やプライバシーにも配慮している。	プライバシー保護に関する内部研修を実施し、職員への理解促進を図っている。研修では職員全員が施設の理念の確認を行っており、意識の向上を図っている。また、入居者の希望に応じて、同性介助を行う等、入居者のプライバシーに配慮した適切な支援を行っている。	職員の接遇に関する基準を設け、研修や指導にて統一を図ると共に、定期的に振り返り・見直しを図ることにより、より入居者の尊厳に配慮した支援を目指していただく事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症を理解するための内部研修実施や申し送り等において、管理者や計画作成担当者に限らず、全ての職員に利用者が意向を表出できる関係づくりに取り組んでいる。計画作成担当者も定期的なケアプラン更新時に意向確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶、間食の時間は決まっているが、その他の時間は個々の利用者のペースで過ごしている。職員が入浴や足浴等の支援をする際も、本人の意向を確認し、利用者本位のサービスに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者や家族の希望に応じて訪問理美容の利用支援を行っている。服装については、気象状況を考慮し職員が協力して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や能力に応じて、職員と協働し食事の準備や片付けを行っている。利用者の希望を確認しつつ、外食の支援や行事食の提供を行い、食事を楽しめるようにしている。食事提供にあたっては、調理前と調理後のサンプルを冷凍保管し、食事前は手洗い励行とテーブルのアルコール消毒を行い、食事摂取時は職員が要介助利用者の支援を行いつつ、全体を見渡せるよう配置し食事の事故防止に取り組んでいる。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立や食材の配送は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされていると共に、入居者の身体状況に応じて食事形態を工夫している。定期的に外食会の実施・行事食の提供等を行い、食に対する楽しさを提供している。	

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に、食事量や水分量を記録したり、体重の推移を一覧表に記録している。また、訪問看護の指導を受け本人の状態に合わせた栄養及び水分摂取に努めている。食事・水分提供の際は、利用者の好みや習慣に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が個々の利用者の口腔ケア実施能力を把握し、自力では難しいことについて職員が本人の状態に合わせた介助をしている。口腔内の異変があった場合は、協力医療機関の歯科医に相談し往診して頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録を活用して本人の排泄パターンや表情、しぐさ等を把握しトイレで排泄できるよう支援している。また、本人の希望や状態変化に応じてポータブルトイレの利用などにて最大限自立できるよう支援している。	一人ひとりの排泄状況・水分及び食事量の記録を基に、個々の排泄パターンに合わせた適切な支援を行っていると共に、声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の自立やおむつやパットの使用頻度の軽減に向けて取り組んでいる。夜間においては、トイレ誘導やポータブルトイレの使用により、適切な支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録にて、個々の利用者の排泄状況を把握している。便秘に対して散歩や運動の実施、ヨーグルトの摂取などを行っている。また、訪問看護と連携し、医療面から状態観察を依頼したり、主治医の指示に合わせて下剤を服用する等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日を予定しているが、時間帯については都度本人の希望を確認して実施している。また、入浴は週3回と固定はせず、本人がその他の日に入浴を希望した場合は、柔軟に対応し本人の希望に合わせて実施している。	入居者の希望や体調に配慮し、柔軟に対応しながら、適切な入浴機会を設けていると共に、必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。浴室には、トイレ・エアコン等が設置されており、安全且つ快適に入浴ができる設備が導入されている。	

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者の生活習慣を把握し、本人の希望に合わせてベッドや布団での就寝ができるようにしている。夜間安眠できるよう日中は活動の機会を設け、不安のため入眠できない場合は職員がコミュニケーションをとり安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の処方箋を全職員が確認できるようにして把握している。また、職員が個々の利用者の処方箋に合わせて服薬支援をしている。健康状態に変化が生じた場合には訪問看護に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望や生活歴を把握し、お花の手入れや雑草取り、料理、食後の後片付け、洗濯物干し、洗濯物畳み、散歩、歌、踊り、創作活動等を行い、楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常生活の中で、本人の希望を確認し、散歩や買い物の機会を作るようにしている。また、外食、外出や夏祭り、敬老会など地域や同法人の障害支援施設や保育園の年中行事への参加を支援している。また、家族の協力を得てお墓参りや親族との面会にでかけられるようにしている。	日頃から散歩やドライブ等の外出の機会を設けていると共に、施設敷地内や菜園等を活用し、気軽に外の空気に触れられるよう配慮している。定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。同法人施設との交流も盛んに行われており、外部との交流が入居者の生活の活性化につながっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に応じ、利用者本人が自由に使えるお金を事業者内で保管し、利用者の消費活動の支援をしている。買物の際は、職員が同行し必要な支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話の利用を支援している。また、外部からの電話の取りづぎもしている。本人宛の手紙が来た際は、切手や手紙を購入する等して返信できるよう支援している。		

【千葉県】グループホームニコニコット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾をしたり季節に合わせた創作活動に取り組んで頂き、季節感を取り入れるようにしている。共用の空間については、毎日、適宜清掃し清潔を保持している。トイレは車いす対応型となっており人感センサーも設置している。アイランドキッチン使用にて発火予防に努めている。避難経路や非常設備も確保しており、非常時への備えもしている。	施設内は、バリアフリー環境の整備・エレベーターの設置等、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。共有スペースに椅子・テーブル等を設置して、自由にくつろげる環境作りがなされている。また、畑や施設敷地内を活用し、入居者が気軽に外の空気を楽しめるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や階段の踊り場、廊下に椅子を設置したり、屋外の敷地内にベンチを置いている。また、ソファを設置し、一人もしくは気の合う利用者同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、従来使い慣れた物や好みの物を持ち込んでおり、居心地良く過ごせるよう配慮している。エアコンや窓の開閉による空調管理をしており、快適に過ごせるようにしている。	馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。布団を敷く事・ポータブルトイレやテレビの設置も可能となっており、入居者の生活歴・身体状況に合わせた居室作りを行っている。また、離床センサー等の利用等、状況に合わせた福祉用具の導入も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており、手すり、エレベーター、玄関の椅子の設置、居室、浴室、トイレの扉の工夫をしている。居室入口になじみの物や作品を展示する等して、安全かつ能力を発揮して生活できるような環境づくりに配慮をしている。		